

2021年10月20日
 パナソニック ホームズ株式会社
 株式会社ツバメアーキテクトゥー級建築士事務所
 株式会社バルーン

職住近接の5階建 賃貸併用住宅『PLAT 295』 2021年度グッドデザイン賞受賞

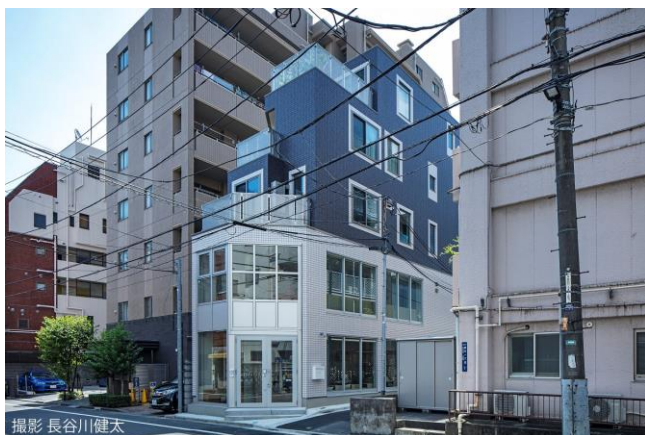
～“住まいを地域に開く”新たな設計思想を三社協働で実現～

パナソニック ホームズ株式会社(以下、パナソニック ホームズ)、株式会社ツバメアーキテクトゥー級建築士事務所(以下、ツバメアーキテクト)、株式会社バルーン(以下、バルーン)の三社は、協働で設計・施工を実施した5階建賃貸併用住宅『PLAT295』(東京都墨田区)において、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する「2021年度グッドデザイン賞」を受賞しました。

■ 受賞した職住近接の5階建賃貸併用住宅『PLAT295』について

本プロジェクトは、施主であるバルーンの依頼で、東京都墨田区の既存建築物(2階建住宅と5階建ビル)の建て替えを、パナソニック ホームズが重量鉄骨造「Vieuno(ビューノ)」による建築計画を開始したことを契機に、ツバメアーキテクトが共同設計者として参画しました。三社協働による建物は、2020年4月に竣工しています。

『PLAT295』は、住宅とシェアスペースを組み合わせることで、下町らしいコミュニケーションを継承する職住近接の暮らしを実現するもので、施主の想いを反映した建物です。パナソニック ホームズのビューノの強みである、狭小地対応や無足場工法といった技術を駆使することで、道路斜線制限などの法的規制をクリアしながら、敷地を最大限に活用する計画がベースとなっています。ここに、建築家ツバメアーキテクトの視点で、シェアスペースをより使いやすく、“活動領域”と“住戸領域”をバランスよく配置することで、まちに開いた多様な使い方が可能な立体的な建物になりました。全国的なハウスメーカー、まちづくりを行う施主、建築家の三社協働によるビューノの設計自由度を最大限に引き出したことが、グッドデザイン賞受賞という評価につながりました。



『PLAT295』
 北側道路からの外観



『PLAT295』
 1・2階のシェアスペース(写真は1階部分)

■ グッドデザイン賞 審査委員 評価コメント

独自の認定構法を持つ全国的なハウスメーカー、まちづくりを行う会社を運営する施主と若手建築家という異色の組み合わせのプロジェクト。施主からハウスメーカーと建築家に別々に契約をし、建築家とハウスメーカーが協働体制をとっている。建築家側から構法のディテールやルールを一つ一つ問い直すことで、認定構法をアッセンブリしたような柔らかさのあるデザインが実現できている。現代のバナキュラーデザインと言える。ハウスメーカーにとっても構法の可能性を見直す良い機会となっている点がプロジェクトとして評価できる。



**GOOD DESIGN AWARD
2021年度受賞**

『PLAT295』 紹介

■ 建物概要

所在地	: 東京都墨田区業平1丁目7番9号
設計・建築	: ツバメアーキテクト、バルーン、パナソニック ホームズ
施工・建築	: パナソニック ホームズ
1・2階シェア部分内装	: アルファースタジオ
敷地面積	: 132.20㎡ (39.99坪)
建築面積	: 90.89㎡ (27.49坪)
延床面積	: 379.70㎡ (114.86坪)
階数・用途	: 地上5階建 1階北側・2階北側 シェアスペース『PLAT295』 1階南側 シェアキッチン『ATELIER295』 2階南側・3階 賃貸住居(2階1戸、3階2戸) 4・5階 自宅スペース
構造	: 重量鉄骨造 Vieuno(ビューノ)
竣工	: 2020年4月
HP	: https://plat295.com

■ デザインのポイント

- ①重量鉄骨造ビューノの構法をベースとしながら、シェア空間を持つ創造的な集合住宅
- ②多様な窓・スカイツリーを臨む充実したバルコニー・みちとの繋がりを持つ立面
- ③シェアスペース・コモンスペースにおける地域の人々とのコミュニケーションを誘発するデザイン

● デザインの変遷



初期提案 (パナソニック ホームズ作成)
住宅が基準となったデザイン



三者協働開始時
シェアスペースの用途を反映



基本設計中間時
標準ルールに合わせてデザインを展開



基本設計完了時
シェアスペースを持つビルへと拡張



撮影 長谷川健太

シェアキッチン『ATELIER295』



撮影 長谷川健太

外と緩やかにつながる大型のサッシ



撮影 長谷川健太

2階 賃貸住戸



撮影 長谷川健太

3階 賃貸住戸



撮影 長谷川健太

大きな窓を活かした1階部分のシェアスペース



無足場工法で施工中の現場

- ◎ グッドデザイン賞受賞内容の詳細はこちら
<https://www.g-mark.org/award/describe/52473>
- ◎ 『PLAT295』完成の裏側・関係者インタビューはこちら
<https://prtimes.jp/story/detail/MxzyegfeeZB>
- ◎ グッドデザイン賞の詳細はこちら
<https://www.g-mark.org/about/>

ご参考

■ パナソニック ホームズ 重量鉄骨造「Vieuno(ビューノ)」について

ビューノが採用する重量鉄骨ラーメン構造は、全国の中高層ビルにも採用されており、過去幾多の地震の中でその安全性を実証してきました。一般的な重量鉄骨構造では鉄骨同士の結合部に溶接を用いますが、溶接の精度は施工者の熟練度に頼るところが大きく、均一な精度の保持が困難です。ビューノでは独自のボルト構法を採用してシステム化。これにより施工者の熟練度に頼らずとも高精度で強い架構体を開発。在来工法に比べて現場もクリーンで、工期も大幅に短縮可能です。ビューノでは異なるサイズの柱と梁を組み合わせることで、必要な空間の大きさや高さに対応。3階建から9階建まで建築可能です。

重量鉄骨造は柱と梁だけで建物を支えることができるため、柱と柱の間隔を大きくとることが可能。ビューノは最大10.8mまで可能で、大きな空間が必要な店舗やオフィス、2台以上のガレージが必要な場合に効果を発揮します。

さらに、都市部に多い狭小地においては、建物を高度利用するために、施工性も重要な要素です。ビューノの無足場工法は、狭小地向けに足場なしで施工するもので、隣家との境界線ギリギリ※1まで建物を寄せた建築が可能です。



◎ ビューノの詳細はこちら <https://homes.panasonic.com/tasoukai/vieuno5/>

■ 株式会社ツバメアーキテクトゥー級建築士事務所について

「今、ここに、どんな空間をつくるべきなのか」その前提から共に考え、設計活動を行う建築設計事務所です。

そのために、空間の設計をする「DESIGN」と、空間が成立する前の枠組みや完成後の使い方・展開を思考し、研究リサーチを行う「LAB」の二部門を掲げて活動を行なっています。二部門を循環させるようにプロジェクトに取り組むことで、建築の新しいバランスを探り、そこにあるべき空間を提案します。

◎ 会社 HP <http://tbma.jp>

※1: 隣地境界線と建物との距離については、別途法令上の制限に従う必要があります。敷地境界との距離は、階数・建物状況により異なります。